

令和7年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部図書館	予算科目	10-5-3-(3)
事業名	図書館運営事業		

■基礎情報

目的	時代や利用者のニーズを的確に把握して、利用者に対して必要な図書や資料の提供に努め、利用者の増加を図る。そのために、利用者が新たな図書と出会う場を積極的に創出し、図書館サービスの向上を図る。小さな時から本に身近に触れ、本に親しむ習慣を育くみ、読書活動の推進に努める。また、郷土資料を“文化財”として守り、後世に伝える。		
事務内容	・ 図書資料の貸出・返却・予約等の窓口業務 ・ レファレンス(参考調査)業務 ・ 図書館資料の選書業務 ・ 図書資料の修繕業務		・ 郷土・行政資料の収集・保存業務 ・ 読書の創設活動業務(掲示物・広報等) ・ 子ども読書推進業務(イベント開催)
現在における経過又は課題	1 近年インターネットやゲーム等の普及により、読書以外の遊びが増え、子どもの図書離れが深刻化している。幼少期から図書に触れることは「読解力」を高めることにもなることから、子どもが図書に興味を持つような読書推進事業を展開していくことが課題となる。 2 近年、近所付き合いの希薄、地域活動の減少、アフターコロナ、核家族化等で高齢者の居場所が減る中、居場所として図書館が注目されている。物理的に限られたスペースで居場所としての空間づくりが課題である。		
令和7年度の目標又は改善策	1 子ども向けイベントや施設見学などで読書スタンプカードについて周知し、図書館で本を借りる習慣を促す。また、NPO団体「子どもと文化の森」と毎年、行っている「子ども読書推進事業」や名古屋経済大学と連携して開催している図書館まつりの参加者を増やすことを目標とする。 2 幼いころから図書館で本を借りる習慣を作ってもらうため、子育て支援センターや児童センターに出向き直接図書館の取り組みや本の良さを紹介する機会をつくる。 3 物理的にスペースが限られているため、利用者同士の会話スペースの空間を創出するのは難しいが、居場所として図書館を利用してもらうことはできる。このことを知ってもらうため、高齢者イベントや地域のサロンに出向いたりして広報周知を行う。また、高齢者の興味関心が高い本や大活字本を図書館に取り入れる。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する					
	基本政策	第 1 節	生涯学習の推進					
成果指標	・利用者ニーズにあった図書館サービスの提供 ・蔵書点数と貸出点数／人口							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
蔵書点数	86, 998	96, 944	93, 578	95, 083	96, 441	98, 060	99, 150	99, 000
貸出点数/人口	6. 7	9. 1	5. 6	7. 7	8. 0	8. 1	8. 3	10

成果指標	・子どもの読書活動の推進 ・子ども向けイベント参加者数と児童図書点数							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
参加者数	1,529	374	18	126	1,434	1,522	2,500	1,800
児童図書点数	33,291	36,195	34,695	35,489	36,459	37,394	38,101	41,500

成果指標	・住民・企業・行政の協働による図書館サービスの支援体制の充実 ・ボランティア登録者数とスポンサー登録数							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
ボランティア登録者数	2	0	0	0	0	0	0	10
スポンサー登録数	0	16	15	15	14	14	17	20

成果指標	・図書館サービスの強みを生かし、時代に合った形での情報発信をしていく。 ・町内企業、団体のパンフレットや求人募集の掲示など、郷土の企業の特色や魅力を発信する。							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
入館者数	35,834	97,839	45,863	69,662	74,031	75,658	76,415	80,000
郷土資料点数	2,623	3,152	3,676	3,741	3,829	4,080	4,170	4,500

■3年間の目標

目標	・利用者の増加					
項 目（単位）		R5実績	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標
図書館利用者数		33, 395	35, 973	36, 731	38, 000	39, 000

■次年度以降の予定

現在、図書館の年代別利用率で60代以降の利用が少ない。近年、近所付き合いの希薄、地域活動の減少、アフターコロナ、核家族化等で高齢者の居場所が減る中、居場所として図書館が注目されている。今後この世代の人口が増えるので居場所づくりとして図書館を利用してもらうように啓発を行う。

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	子どもの読書週間イベント
5	子どもの日イベント 施設見学
7	課題図書の周知 7月～8月 子ども読書推進事業イベント（子どもと文化の森）
8	図書館のひみつ基地
9	職場体験 敬老の日イベント
10	青少年のよい本の周知
11	施設見学 ふれあいまつり おはなし会（名古屋経済大学）
2	子ども読書推進事業イベント（子どもと文化の森）
年間	子ども読書スタンプカード

■目標又は改善策に対する取組内容

- 小学生以下対象のスタンプカードを令和5年度から導入し、令和7年度においてもGW、夏休み、冬休みなど長期休みにWスタンプ期間を設け、令和6年度に引き続き季節ごとのシールを配布した。子ども読書推進事業では令和6年度に2回行った「えほんでビンゴ」の内容を変え、令和7年度は「えほんでなぞとき」を同時期の7月と2月の2回行った。図書館まつりでは、例年に引き続き名古屋経済大学のボランティアサークルの読み聞かせを行った。
- 新規事業として各児童センターで行われている0から2歳の幼児とその保護者が参加するこあら広場での読み聞かせを、6月から令和8年2月まで行った。また、月10冊程度の本の貸出しを行い、直接本に触れてもらう機会を設けた。
- 居場所作りとして、新規事業である全世代を対象にした「図書館のひみつきち」を8月に1回実施した。書庫に保管してある図書や貸出不可の図書を展示をした。また高齢者の居場所作りとして、大活字本など読書バリアフリーの周知を広報11月号にて紹介し、令和7年度には大活字本を13冊購入し内容の充実を図った。

■評価

- スタンプカード満了者は令和6年度は229名に対し、令和7年度は352名であり、図書館で本を借りる習慣を促すことができたため次年度も継続して行っていく。子ども読書推進事業「えほんでなぞとき」は令和6年度128人から令和7年度191人の参加となり増加、図書館まつりでは令和6年度84人から令和7年度100人の参加となり図書館を知ってもらう機会ができた。
- 各児童センターにおいて合計21回行い、参加人数は延べ141組の親子が参加した。大型絵本、しかけ絵本、紙芝居のうち毎回2冊程度を選定して読み聞かせ行い、本の良さや図書館の取り組みなどを知ってもらう機会ができた。
- 「図書館のひみつきち」では144名の参加者があり、アンケートの結果、高評価であり、継続して実施していきたい。高齢者の居場所作りとして、大活字本の購入だけでなく、通常図書用の読書補助用具であるリーディングトラッカーを設置して、環境の改善を行った。